

## 2019年度 FIT 草木染塾 第2回

- ・開催日:5月27日(月)
- ・場所:川崎市黒川青少年野外センター

午前の前半は座学で「日本の伝統色」について学びました。日本には自然を映し、四季それぞれの景色に合せ、季節を織りなす色が揃っている。日本の色と自然との深い関係について、改めて認識しました。

### 実技:

#### (1)クサギの緑染め: 絹のストール

- ・昔は黄色の染色と藍の重ね染めで緑を作っていた。山崎青樹さんが、昭和60年に若葉をアルカリ液で煮出して、銅溶液で媒染し、直接植物の緑を取り出す技法を編み出した。
  - ・クサギの葉を炭酸カリウムを溶かしたアルカリ液で煮出して染液を取る。その染液を酢酸を加えpH 5-5.5位の酸性にすると、よく色がでる。一方酢酸銅を使って銅媒染液を作った。
  - ・グラデュエーションを出す為に、**染液→水洗い→媒染→水洗い→染液**を10回程繰り返した結果、良い緑色が出た。
- 今回クサギの場合は1番液を使ったが、植物によっては1番液を使うと灰汁が出る為、2番液・3番液を使った方がいいケースがあり、経験を重ねる必要があるとの説明があった。

#### (2)クチナシの無媒染: レーヨンのストール

乾燥させたクチナシの実を切って煮だしたが、沸騰する前から既に出始めていた。染液にレーヨンのストールを浸けるときれいな黄色に染まっていた。

奥村講師から、最初から最後まで自分一人でやってみるのが大切で、自宅でもどんどん染色をやってみるといいとのアドバイスがありました。今回も薄手の絹のストールを次回講座までに染めてくるという宿題が出されました。材料選びから始めますが、楽しみです。今回も楽しくて勉強になった講座でした。講師の皆さん、ありがとうございました。

(敬称略)

講師:奥村具子

助講師:中野修平、矢吹佳枝

受講者:3名 — 田川裕則、岡部桂子、入江克昌

(報告:入江克昌)



クサギの染液



クチナシの実



クチナシ(レーヨン、無媒染)



クサギ(シルク、銅媒染)